

子供にも筋電義手を 神戸の病院、普及へ貸与開始

兵庫県立リハビリテーション中央病院（神戸市西区）は、本人の意思で指を動かせる「筋電義手」の子供用をストックし、他の医療機関に無料貸与する全国初のバンクを今夏にも創設する方針を決めた。患者は成長に合わせて交換するため、小さくなった義手の提供を受けてリサイクルする。補助金が出ない訓練用として医療機関に使ってもらい、筋電義手の普及を図る。

筋電義手は、筋肉が発する微弱電気で動くロボットハンド。腕の一部を欠損して生まれたり、事故で腕を失ったりした子供も習熟すれば、健常者に近い生活が可能となる。1台約150万円と高価だが、訓練して使いこなせるという医師の意見書があれば、障害者総合支援法に基づき補助金が支給され、上限3万7,200円の自己負担で購入できる。

しかし、子供用を扱う医療機関は全国で数施設だけ。使いこなすまでの訓練用に公費が支給されないことがネックになり、ほとんど普及していない。

2002年に国内で初めて子供用の筋電義手を導入

した同病院では、患者に日常訓練用として無料貸与している。2013年度末現在、2～15歳の患者28人に貸し出し、ストックはゼロ。4人が待機しているという。

そこで、3年程度で小さくなる子供用の提供を受け、他の医療機関に貸すことにした。貸出先は医師や作業療法士、義肢装具士ら支援スタッフをそろえ、同病院で研修を受けるなどの条件を満たした医療機関とし、既に東大医学部附属病院との連携が決まっている。

バンク創設のためには一定数の義手が必要なため、資金調達が当面の課題だ。医師らが企業を回って寄付を呼びかけている。担当するロボットリハビリテーションセンター長の陳隆明医師（53）は「国が取り組むべきだが、手をこまねいては筋電義手を必要とする子供の元に届かない。子供の可能性を広げたい」と話している。

（毎日新聞・東京 2014年4月15日）